

計 報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

(平成8年4月から平成9年3月までの、ご連絡のあった方々)

氏 名	(回)	逝去年月日	和田 義夫 (32)	平 7.12.12
小幡勇二郎	(21)	平 7. 7.29	大滝 義郎 (34)	8.10.13
竹内 丈夫	(21)	8. 6.	河西 康雄 (34)	8. 3. 7
今井 久雄	(23)	8. 7. 1	久保 武彦 (34)	7.11.25
上条 次郎	(25)	7.	宮沢 正香 (34)	8. 6.29
五味 静馬	(25)	8. 6.11	宮坂 五郎 (35)	9. 3.30
小口 源三	(26)	6. 5.16	古牧 三義 (36)	8.11.26
和田 和夫	(26)	8.11.20	小松 一夫 (36)	7. 3. 5
藤森 康男	(27)	7. 7. 1	五味 義肝 (36)	9. 2.27
宮内 義雄	(27)	8.12. 2	山田 光夫 (36)	9. 3. 4
小口 行人	(28)	8. 4.10	小松 義弘 (37)	8. 4.29
矢崎 俊雄	(29)	7. 9. 9	山田 康晴 (37)	9. 3.24
宮沢金三郎	(29)	7. 9. 6	河西 宏昌 (38)	9. 3.11
坂本 喬	(30)	7.11.27	関 正明 (38)	8. 8.14
島田 喜仁	(31)	8.12.11	森田国太郎 (38)	8. 6. 1

岩本 善人 (39)	平 8.11.12	赤羽 公作 (45)	平 8. 6.20
藤原 正男 (39)	8. 5.29	伊藤龍太郎 (46)	8. 3. 1
矢崎 貞次 (39)	8. 1.15	立木 嘉彦 (46)	8.11.23
小池 芳平 (40)	8. 3. 7	山田 郁夫 (46)	8. 7.22
武居 勝造 (40)	8.11. 9	篠原 正 (48)	8.11.11
塚原 森夫 (40)	8. 7.13	野口 利夫 (48)	8.12.13
小嶋 秀寿 (41)	8. 8.11	箕輪 清成 (49)	8. 6.25
小林 滝登 (41)	8. 6.18	小浜 直久 (49)	9. 2.18
杉村 悟 (41)	8.10. 7	林 宏一 (51)	8. 3.11
林 正治 (41)	7.10. 7	瀬木 将博 (57)	9. 3.24
両角喜久治 (41)	9. 1.18	両角 玉男 (62)	9. 1. 7
斉藤 兼平 (42)	8. 4.27	長田 佳秋 (63)	9. 3. 7
宮坂 善喜 (42)	8. 2. 9	浜 栄二 (70)	9. 1. 4
土橋 清志 (43)	8. 9.17	長田 一男 (72)	8. 4.21
古畑 直也 (43)	8. 6.11	宮下 伝 (78)	8.10.
一ノ瀬鹿男 (44)	8. 5.15	大野さつき (83)	9. 1.
浜 栄助 (44)	8. 6.10		

中村梧郎写真展長野全県下で開催さる

写真展「戦場の枯れ葉剤」の開催にあつて

中村梧郎君(62回)がベトナム戦争で報道写真を撮っていたことは知っていたけれど、恥ずかしながら写真集や著書については、彼と会う5年前までは知らないでいました。昨年写真集「戦場の枯れ葉剤」で日本ジャーナリスト会議特別賞を受賞されたと聞いて、なんとか故郷で写真展や講演会を開催したいと62回生の有志に相談したところ、快く協力してくれ、すぐに実行委員会が組織されました。この「戦場の枯れ葉剤」に書かれているダイオキシンの恐ろしいまでの環境や生態系、人体への影響について、出来るだけ多くの人達に訴えるために、全県下で写真展や講演会を開催したいということで、62回生で信濃毎日新聞社常務取

締役の瀬木君にお願いをして主催を諏訪清陵高校同窓会、信濃毎日新聞社とさせていただきました。また会場の手配や、展示方法、かかる予算については、長野アビューロの八代さんに全面的に協力していただきました。



写真展は諏訪、長野、上田、伊那、松本、岡谷と6ヶ所で行われ、述べ5,300人を超える方々が見られ年令も子供から80歳代までと全ての年代、階層にわたり

ご覧いただき、そこに寄せられたアンケートは涙なくしては読めませんでした。また講演会はスワブラザ、岡谷市民館の2ヶ所で行われ、日本の環境問題の現状と将来への警鐘を訴え大変な反響を呼びました。

中村梧郎君が何十年にもわたって訴え続けてきたことがどんなに大変なことなのか、これが契機となり、我々みんなが地球の環境問題などに関心をもつ一つのきっかけになったことは、写真展を開催した我々62回生有志にとって非常に意義あるものであったと同時に、開催の機会をいただいたことに感謝しています。

中村梧郎写真展及び講演会開催に尽力された皆様に、また各方面から寄せられたご好意、会場にお越しいただいた方々にあらためて心から感謝申し上げます。

大木節行 (62回)

編集後記

会報の編集は同窓会事務局でやって頂けるものと思い込み気軽に引き受けましたが、大変な作業で参りました。20頁の内9頁は事務局の小口先生と木下先生が早々に纏めてくださいましたが、残りの11頁は総て原稿依頼からのものでした。20名程の方々にお願いしたところ、それぞれ時間を割いて原稿をお寄せ下さいました。誠に有難うございました。又、63回の編集委員会が新しいレイアウトを確立して下さったため、この点は楽をさせて頂きました。こんな時でないとい生活することもないだろう旧友に電話ができたり、大先輩に編集委員の肩書きを振りかざして原稿を催促したりと、楽しいこともありました。

◎編集委員：丸山 剛、小口博義、渡辺正賢、山岡弘道
原 忠之、佐原一誠、伊藤和夫 (64回生)

清陵同窓会報

自反而縮雖千萬人吾往矣

第23号 発行：諏訪清陵高校同窓会 〒392 諏訪市清水1-10-1 編集：会報編集委員会、第64回生(昭和33年入学)

覇気喚びおこし武に文に

世上教育の危機が叫ばれている昨今ですが、私達の母校は、後輩は今、どんな状況にあるのでしょうか。後掲(p.7~8)の「学校だより」に詳しい報告があるように、明治以来百年に亘って築かれてきた清陵の輝かしい伝統は健在です。長野オリンピックも近く、とかくスポーツの

みが喧伝されがちですが、後輩達は文系のクラブにも運動系のクラブにも、青春の情熱を思いきり沸き上がらせ、大学進学においても素晴らしい実績を挙げております。まさに「覇気喚びおこし 武に文に 此の世をさま」さんとの気運が清陵を覆っています。

同窓会の一番の目的は、言うまでもなく会員の連帯と親睦ですが、ただ過去を懐かしむだけでは儚いとも言えましょう。我々の連帯が、後輩生徒諸君の成長に力を貸し得てこそ、生きた同窓会なのです。本号では、同窓会存在の意義をかけて、同窓諸兄に重大な提案をいたします。



県大会決勝進出を決めた野球部



全国選抜大会出場の硬式テニス部



インターハイ準優勝の女子ダブルスカル



全国学生科学賞を手にした生物部

平成9年度 定期総会案内

1. 日 時 平成9年6月22日(日)
午後1時より(受付正午より)

1. 会 場 諏訪シティホテル成田屋

1. 議 事

- (1) 平成8年度 会務・決算・特別会計報告
(2) 平成9年度 事業計画・収支予算案審議
(3) クラブ活動助成基金に関する件

1. 記念講演 午後2時50分より

講師 プラスエンジニアリング(株)
代表取締役海野光三郎氏(64回)
演題 「知恵出し競争の時代」の経営

1. 懇親会 午後4時30分より

於 諏訪シティホテル成田屋

1. 会 費 5,000円

会員多数のご来会をお待ち致します。———諏訪清陵高等学校同窓会 会長 宮坂久臣
(当番幹事64回生、次期当番幹事65回生、サブ幹事74回生・84回生)

諏訪清陵高校OB・OG

「諏訪湖一周マラソン」のご案内

本年も恒例の湖周マラソンを下記により、母校の諸君に加えてもらい実施致します。多数の皆さんの参加と応援を期待しご案内とします。

1. 日 時 10月21日(火) 女子8時40分、男子9時
2. コース (予定) ⑤上川河口グラウンド ⑥湖畔公園 約16km
3. 受 付 湖畔公園ゴール地点 午前7時30分よりゼッケン受取り後出発点へ。終了後懇親会

4. 参加費 3000円

5. その他 健康診断もお忘れなく。雨天の場合受付時に判断

清陵湖周マラソンOB会

会 長 井上彦次(42回)
事務局 長 牛山 孝(59回)
問 合 先 原 英充(65回) Tel 0266-58-3547
会 計 唐沢千明(76回)

【同窓生の皆さんへのお願い】

諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会について

私達の母校は、皆様のご協力で先般100周年記念行事を成功裏に完了することが出来ました。母校はいよいよ充実に向かい、この母校に青春の熱い思いを重ねつつ、同窓の交わりの更に深まっていった100周年でした。

近年後輩生徒達の活躍には目を見張るものがあります。野球部は昨年の全国高等学校野球選手権大会において、はじめて県代表決定の決勝戦にまで駒を進め、甲子園にもう一步のところまで行きました。またボート、テニスの躍進、囲碁の活躍等、素晴らしい活動が見られました。生徒達のこうした文武両道に互る資質の向上こそが、素晴らしき学校になって行く基本であり、私達同窓生としての誇りにも通ずるものがあります。100年の歴史を踏み越えて、清陵高校が更に充実され素晴らしい学校になることは、同窓生としまでも大変嬉しいことであり、こうした母校を中心としての同窓生の絆がより深く結ばれることになると思います。

現在学友会には、あまたの運動ならびに文化の部活動があります。これらの活動は、高校時代に得られる学術的能力と相俟って、生徒達の人間性確立に大きく貢献しております。学問のほかにこうした活動が、将来の日本ならびに郷土を背負って立つ人材の育成につながるものであると信じます。私達同窓生が後輩生徒達の活動に意を注ぐことは、母校の発展と、将来にわたる有為の人材育成に対し、大変有意義なことであろうと思います。

つきましては、生徒達のこうした活動に、私達同窓生がいささかなりと力添えが出来ないかと考え、文系・運動系のクラブおよび同好会の活動に対して、同窓会としての支援体制の確立についてご理解をお願いする次第であります。具体的に申しますと、諏訪地区各校の事例を参考にして検討した結果、同窓生有志に一人当たり年間2,000円のご負担をして頂きたいということです。これを毎年集めるのは大変ですので、

5年分を一回にまとめて、5年毎に10,000円のご協力をお願いする次第です。

現在生徒達のクラブ活動遠征費は、昨今の実力と実績からみて年間約1,300万円かかっております。そのほとんどを選手の父兄が負担しておりますが、今後は県費の補助に合わせて、学友会、PTA、同窓会の三者が出来るだけの負担(年間約1,000万円)をしようということで、PTAとも話し合っており、同窓会では毎年300万円を支援しようというものであります。個々の同窓会員各位におかれては、標題の「諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会」に加入して頂き、提出頂く会費を集めて各年度毎に目標額の支援をして行きたいと考えます。

この会に入会して頂いても、具体的な見返りや特典は何等ございません。全く無償の行為であります。そんなことに金を出す奴がいるものかと言う声もないではありませんが、清陵同窓会では、敢えてそこに賭けてみようと思います。後輩の生徒達は私達の子供であり、孫であります。この生徒達が将来日本のためまた郷土のために私達のやってきたことを引き継ぎ、更に発展させてくれることに大きな期待をかけ、応援しましょう。旧交を温め思い出に浸ることも大切ですが、母校と後輩への支援こそが、同窓会の果たせる大きな仕事なのです。またそれは、未来へ向かっての私達の果たすべき仕事の大きな一部になるものと考えます。

どうかよろしくお願い申し上げます。

諏訪清陵高等学校同窓会 会長 宮坂久臣
副会長 有賀裕
〃 寺島敏郎
〃 茅野實
〃 淵上良子
他 役員一同

諏訪清陵高校クラブ活動同窓会後援会

入会のご案内

前ページの同窓会役員一同からの「お願い」にありますように、標記の後援会(以後「後援会」と略称します)を発足させて、後輩生徒達を支援しようということが、3月1日に開かれた常任幹事・幹事合同会で決定をみました。今月末の定期総会での議決を経てから会を発足させた方がよろしいでしょうが、それではお願いの手紙や振替用紙等をお送りする費用と手間がバカになりませんし、5月からもう地区予選の始まるクラブもありますので、同窓会則第13条の「幹事会は……必要に応じ総会に替えて審議決定することができる」という規定を援用し、前記合同会で決定して定期総会には報告をするということにしました。この段ご了解願いたいと思います。

文武両道にわたる後輩達の活躍が目ざましく、それに伴い選手個人の負担もふくれあがっておりますので、PTAと一緒に、同窓先輩として我々の出来る範囲で支援しようというわけです。そこで諏訪地区の各高校の遠征費補助を調べてみたら、なんと清陵の補助は最低ランクなのでした。せめて他校並みにと、PTA、学友会、同窓会の三者で支援し、同窓会では年間300万円を負担しよう、「後援会」を発足させることにしました。

この同窓会からの支援を、同窓会一般会計から出せば問題はあまりないのですが、昨今の金利低下でそれだけの余裕はありませんし、生徒達全員に関わるような教育費の援助(注参照)というのでもありませんので、後輩達のクラブ活動のために一肌脱いでやろうとお考えの方々に、この「後援会」の会員になって頂き、年間2,000円の会費を提出願いたいというものです。ただし毎年お納め願うのは面倒なことで、5年分の会費として1万円をまとめてご送金願いたいと思います。そうして集まった浄財は同窓会の「後援会」特別会計に入れ、当分の間年間300万円を上限として、母校に設置する「クラブ活動後援会会計」に提出します。PTA、学友会、同窓会の三者協議により、遠征費等の補助に関する内規や細かい申し合わせ事項を決めましたが、「……会計」の厳正かつ有効な運営は学校に、会計監査はPTAにお任せし、年度の報告を受けるということ以外は、ここでは省略させてもら

います。

この「後援会」への入会は、後輩達のクラブ活動を支援するという、全く無償の行為であります。何等の特典もなく、金は出しても口は出さないというものです。私達が清水ヶ丘で過ごした青春の日を思い起こし、自分を育ててくれたクラブのために、そして母校を代表して戦う後輩達のために、一人でも多くの方々が「後援会」へ入会して下さいようお願いします。ご入金をもって温情ある「後援会」員とさせていただきます。翌年度の会報に会員名簿を掲載する予定です。

ご送金方法

- ◇同封の郵便振替用紙をお願いします。(手数料無料)
- ◇ご都合で5年分一括でない場合は金額を訂正して捺印して下さい。(1年分以上何年でも結構です)
- ◇銀行の方が都合のよい方は、下記の要領でお願いします。手数料はご負担頂ければ幸いです。
- (宛先) 清陵クラブ活動同窓会後援会
八十二銀行諏訪支店 普通 689-629
諏訪信用金庫上諏訪支店 普通 1049944
- ・差出人のフリガナ欄に必ず回を書いてから名前を記して下さい。(例 64 セイリョウタロウ)

- ◇注1 同窓会としては(財)清陵会へ毎年250万円を拠出しています。この会は同窓会長を理事長とし、副会長および各支部長また学校関係者を理事として、「育英資金・教育振興費・教育研究助成費・三沢文庫運営費・学術講演会費」に、昨年度は約283万円支出しています。
- 注2 遠征費補助は①地区大会では交通費・宿泊費とも1/2、②県大会では交通費は実費、宿泊費は1/2、③ブロックおよび全国大会では交通費・宿泊費とも実費(但し一泊8千円を上限とする)
- 注3 初年度の「……会計」各団体の拠出金は
PTA 494万円 学友会 130万円 同窓会 300万円
2年度以降はこの額の割合で拠出する。
- 注4 「後援会」の会長は同窓会長が当たる。会則等は省略。

人とともに成長する

HUMAN & ADVANCED

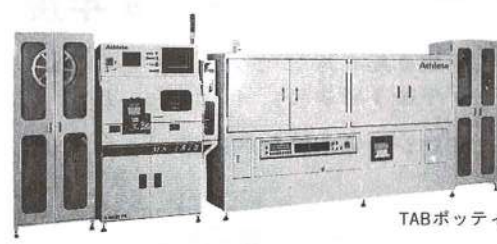
先進のメカトロニクスを追求する



株式会社 **ミスズ工業**

本社・工場 〒392 長野県諏訪市四賀3090 ☎(0266)52-6611(代)
箕輪工場 〒399-46 上伊那郡箕輪町中箕輪1536 ☎(0265)79-8866(代)

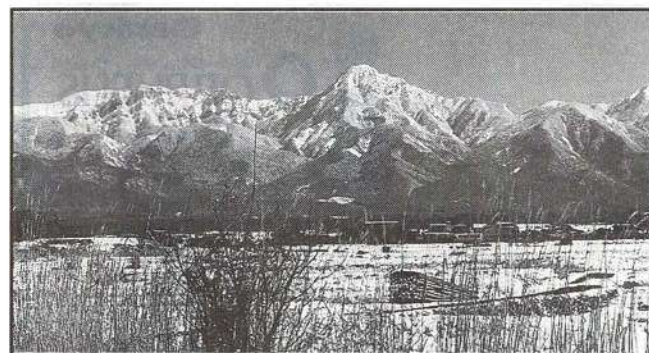
ミスズ工業PROFILE/創業●昭和40年 資本金●2億円 従業員数●300名 事業内容●精密金属部品製造、精密金型・製作、電子部品製造
ミスズFAPROFILE/創業●平成元年 資本金●8,180万円 従業員数●50名 事業内容●FAエンジニアリング
関連会社/株式会社東北ミスズ、ミスズトレーディング株式会社、株式会社サンメディカル技術研究所



TABポットング装置
MS-1870

株式会社 **ミスズFA**

ミスズFA㈱ 〒392 長野県諏訪市四賀2970-1 ☎(0266)53-3369(代)
東京営業所 〒160 新宿区西新宿7-10-12KKDビル ☎(03)5386-8550



ハケ岳

ひかり味噌株式会社

林 善八郎(58回生) 林 博優(64回生) 林 善博(81回生)

少年の頃の質素な食事に、おいしい味噌汁があった。
お袋の温もりがあった。故郷の味を伝えたい。
贈る人の心の温かさを伝えたい。

大寒仕込み天然味噌「産直 雅」

500g×6●お届け価格 ¥3,670

●申し込み方法/ひかり味噌株式会社 林善八郎(58回生)又は「産直の係り」まで
①ハガキ/〒393 長野県諏訪市下諏訪町栄5238 ②TEL.0266-28-5188
/FAX.0266-27-8224 ③郵便局ふるさと小包番号 17-051-Aのいずれかの
方法でお申し込み下さい。●お支払い方法/同封の振替用紙でお支払い下さい。

平成8年度 会 務 報 告

平成8年

4. 6 平成8年度諏訪清陵高校入学式
入学生(102回生)283名(男子173名、女子110名)小菅同窓会長祝辞
「写真でつづる清陵の百年」刊行配布開始(予約頒布数3,300冊)
- 4.21 上伊那支部総会 午後3時 於辰野パークホテル
5. 7 定期総会打合せ会 午後6時30分 於成田屋
- 5.18 百年史委員会(打上げ会) 午後6時 於波の湯
- 5.23 会計監査 午後4時 於清陵会館
6. 1 財団諏訪清陵会理事会 (平成7年度事業・決算承認、平成8年度事業・予算審議) 午前11時 於母校
常任幹事会(幹事会提出議案策定・審議) 午後1時30分 於清陵会館
幹事会(平成7年度事業・決算承認 平成8年度事業・予算承認) 午後3時30分より 於清陵会館
懇親会(兼百周年記念事業役員慰労会) 午後5時 於浜の湯
6. 6 会報22号完成、発送(15,000部)(会報編集担当 五味委員長ほか63回生) B5版をA4版に変更
- 6.23 平成8年度諏訪清陵高校同窓会定期総会 午後1時 於諏訪シティホテル成田屋(平成7年度会務・決算・特別会計承認、百周年

- 記念事業報告承認、会計監査報告、平成8年事業計画・収支予算承認、役員改選(小菅会長、小平副会長退任、会長宮坂久臣(49回)、副会長有賀裕(50回)・寺島敏郎(50回)・茅野實(52回)新任、淵上良子(56回)再任、監事井上彦次(42回)・小口成人(44回)再任)
- 校旗贈呈 当番幹事63回生・次期当番幹事64回生より学校に
記念講演 午後3時 演題「釣りバカ日誌と清陵高校」小学館編集部 武居俊樹氏(56回)
演題「釣りバカ日誌と私」釣りバカ日誌作者 やまさき十三氏
懇親会 午後5時 (当番幹事63回生・次期当番幹事64回生・サブ幹事73・83回生)
- 7.17 岡谷支部総会並びに飯島宗一氏(41回)叙勲祝賀会 午後6時 於ホテル岡谷 (宮坂久臣支部長退任、山岡正邦(48回)就任)
- 7.22 同窓会新本部役員・学校連絡会 午後6時 於あるが
9. 6 百年史代金未納者へ督促状発送
- 10.22 本部役員・学校・PTA役員連絡会(クラブ活動後援基金造成について) 午後6時 於あるが
- 10.25 東京支部「東京清陵会」総会 午後6時 於虎ノ門パストラル(小平祐支部長退任 寺島敏郎(50回)就任)
- 第80回湖周マラソン(OB20名参加)
- 11.13 諏訪支部総会 午後4時 於諏訪シティホテル成田屋 (河西保美支部長退任 宮坂祐次(51回)就任)
- 11.16 松本支部総会 午後4時 於信州会館

- 11.28 会員名簿代金未納者へ第2回目の督促状発送
- 平成9年
- 1.16～25 中村梧郎(62回)写真展「戦場の枯葉剤」於スワプラザ3F特設会場 主催信濃毎日新聞社・諏訪清陵高校同窓会・中村梧郎写真展実行委員会
- 1.19 講演会 午後1時30分 演題「環境汚染とダイオキシン」講演中村梧郎氏(62回) 於上諏訪駅前市民会館
- 1.22 クラブ活動後援会打合わせ会 午前11時 於母校 学校、PTA、同窓会による三者協議
2. 8 支部長会(クラブ活動後援基金造成について) 正午 於あるが
- 2.14 平成9年度定期総会打合せ会 午後6時 於仙岳
- 2.15 東海支部総会 午後4時 於ホテルアソシア(名古屋)
- 2.21 長野支部総会 午後6時 於バスターミナル会館
- 2.25 茅野支部総会 午後5時 於岡島
3. 1 支部長会 正午 於清陵会館
常任幹事・幹事合同会議 午後2時 於清陵会館
懇親会 午後4時 於清陵会館
3. 7 諏訪清陵高校第49回卒業式 卒業生<100回生>322名(男子199名、女子123名)宮坂会長祝辞
- 3.13 富士見支部総会 午後6時30分 於富士見油屋
- 3.13～19 中村梧郎写真展 於諏訪信用金庫本店ギャラリー
- 3.16 中村梧郎講演会 午後2時 於岡谷市公民館
- 3.22 岡谷支部総会 午後6時30分 於ホテル岡谷
- 3.25 諏訪清陵高校転退職職員送別会 (事務局 木下芳英)

平成8年度 同窓会一般会計決算報告

平成8年4月1日～平成9年3月31日
収入総額 18,493,290円
支出総額 14,449,958円
差引残高 4,043,332円

収入の部 (単位:円)			
科 目	予算額	決算額	備 考
前年度繰越金	9,682,534	9,682,534	
入 会 金	1,410,000	1,415,000	5,000×283人
終 身 会 費	4,320,000	5,530,000	10,000×283人 未納会員270人分
基本財産収入	200,000	202,448	大口定期預金利息
繰 入 金	0	0	
雑 収 入	2,000,000	1,663,308	普通預金利息、名簿、CD等売上金
合 計	17,612,534	18,493,290	

支出の部 (単位:円)			
科 目	予算額	決算額	備 考
会 議 費	300,000	504,576	常任幹事会・幹事会 他
総 会 費	400,000	318,421	定期総会費(会費5,000円徴収)
旅 費	470,000	459,000	役員出張旅費
人 件 費	720,000	240,000	書記給与
需用費	220,000	146,148	新聞代、消耗品他
役 務 費	620,000	601,583	電話料、郵便料、電報料
慶 弔 費	730,000	720,780	支部総会祝儀、弔電他
記念品費	250,000	223,300	卒業生記念品(印鑑)代
繰 出 金	4,250,000	4,250,000	会報特別会計(170)、(財)清陵会(250)、会館維持(5) <単位:万円>
基金繰入金	9,600,000	6,960,000	同窓会基金積立
雑 費	20,000	25,250	名簿二重払返金
予 備 費	32,534	0	
合 計	17,612,534	14,449,958	

(特別会計) 百年史会計報告
平成4年7月7日～平成9年3月31日
収入総額 20,889,122円
支出総額 16,390,024円
差引残高 4,499,098円 (平成9年度一般会計へ繰入)

収入の部 (単位:円)		
科 目	収入済額 (内平8年度分)	備 考
繰 入 金	5,000,000 (0)	一般会計より
売 上 金	15,855,000 (15,855,000)	3,523冊分
雑 収 入	34,122 (1,745)	普通預金利息他
合 計	20,889,122 (15,856,745)	

支出の部 (単位:円)		
科 目	支出済額 (内平8年度分)	備 考
会 議 費	765,382 (54,300)	資料、食料費他
旅 費	391,690 (35,840)	委員出張旅費
需 要 費	463,106 (55,297)	写真代、コピー代等
役 務 費	196,675 (177,065)	郵送代、督促費等
調査取材費	1,004,120 (4,120)	
製 作 費	12,679,455 (12,679,455)	印刷製本費(印刷部数4,000冊)、発送費
販売促進費	891,906 (0)	申込ハガキ等
雑 費	27,600 (26,100)	二重振込返金等
合 計	16,390,024 (13,032,177)	

平成9年度 同窓会一般会計予算

収入総額 18,581,430円
支出総額 18,581,430円
差引残高 0円

収入の部 (単位:円)			
科 目	予算額	前年度予算額	備 考
前年度繰越金	4,043,332	9,682,534	
入 会 金	1,425,000	1,410,000	5,000×285人(新入学生)
終 身 会 費	7,200,000	4,320,000	20,000×285人 未納会員150人分
基本財産収入	214,000	200,000	大口定期預金利息
繰 入 金	4,499,098	0	百年史特別会計より
雑 収 入	1,200,000	2,000,000	預金利子、名簿等販売
合 計	18,581,430	17,612,534	

支出の部 (単位:円)			
科 目	予算額	前年度予算額	備 考
会 議 費	250,000	300,000	常任幹事会・幹事会各2回他
総 会 費	400,000	400,000	定期総会費(会費5,000円徴収)
旅 費	500,000	470,000	役員出張旅費 他
人 件 費	720,000	720,000	書記給与
需用費	250,000	220,000	新聞代、消耗品、用紙代他
役 務 費	550,000	620,000	電話料、郵便料、電報料
慶 弔 費	800,000	730,000	支部総会祝儀、弔電他
記念品費	250,000	250,000	卒業生記念品(印鑑)代
繰 出 金	7,350,000	4,250,000	会報特別会計(180)、(財)清陵会(250)会館維持(5)クラブ活動後援会計(300) <単位:万円>
基金繰入金	5,000,000	9,600,000	
雑 費	20,000	20,000	
予 備 費	2,491,430	32,534	
合 計	18,581,430	17,612,534	

平成8年度 同窓会報特別会計決算報告
(平成8年4月1日～9年3月31日)
収 入 額 2,489,391円
<一般会計よりの繰入金、広告収入等>
支 出 額 2,409,058円
<会報22号16,600部印刷費、郵送料等>
収 支 残 額 80,333円<次年度へ繰り越し>

平成8年度 清陵会館維持会計決算報告
(平成8年4月1日～9年3月31日)
収 入 額 434,897円
<繰越金、一般会計よりの繰入金等>
支 出 額 16,253円
収 支 残 額 418,644円<次年度へ繰り越し>

技術・夢・《三協精機》

世界第一のオルゴールメーカー《三協精機》。
その最先端技術が、夢を形にした。

時代を越えて甦る“人間の音”が
技術の粋による“心の音”が
感動と安らぎの世界へ誘います。



本社下諏訪工場 〒393 長野県諏訪郡下諏訪町5329
TEL: 0266-27-3111代/FAX: 0266-28-5833
東京本社 〒105 東京都港区新橋1-17-2
TEL: 03-3502-3711代/FAX: 03-3502-6228

Sankyo
誇り高い音の名品——オルフェウス
ORPHEUS



オルフェウス
80弁ディスクオルゴール——ORPHEUS——
Traditional Style 801[トラディショナル・タイプ]
Modern Style[モダン・タイプ]

麗人酒造株式会社

諏訪市諏訪二一九一—二
電話〇二六六五二二二二(代)



鑑評会出品酒
大吟醸 希
720ml
4,000円

麗人は風土に醸される……
霧ヶ峰の澄んだ空気
湧き出る地下水。
深々と冷え込む冬の厳しさを
加えて良質な米。
酒造りに欠かせない環境が
全て満たされたこの地で
酒の真髄を求めてきました

歴史と水の蔵麗人



【会長就任にあたり】
今こそ結束を

同窓会会長 宮 坂 久 臣

100周年の記念事業も素晴らしい出来栄えて終了し、諏訪清陵高校同窓会の地歩が内外共に結実された今、伝統ある同窓会長を仰せつかり、震憾禁じ得ない気持ちであります。

これから、どのように同窓会を運営し、どのように同窓会をまとめあげていくか、私にはいささか任重きを感じている次第です。

しかしながら、お引き受けした以上は、同窓生の間に築かれた深い友情の絆を生かし、同窓会の存在価値の高揚につとめて参る所存であります。

皆様のご支援とご協力を心よりお願い致します。

さて、同窓会の主たる目的は会員相互の親睦を図り母校の発展に寄与することにあります。その為に当番幹事の皆さんにご苦勞をいただき、年一回定期総会を開催するほか、会報を発行する中で同窓会の運営、母校の現況、会員の近況等をお知らせしています。

また、(財)諏訪清陵会を通じて母校の教育振興のための助成も行っています。昨年就任早々、母校100年の歴史の中で今までにない野球部の活躍が、同窓生の母校に対する熱き思いに火をつけ、燃え上がるさまを身をもって感じてまいりました。野球の他にテニス、ボート、囲碁、また文科系のクラブの活動等生徒たちの素晴らしい活躍を聞くにつけ、母校に対する思いは、いやが上にも高まってまいりました。

その結果、生徒たちの活躍を文武両面にわたり支援していきこうという気運がみなぎり、学校PTAと相談の結果、全面的に支援する体制を充実していくことになりました。

詳細は別にお知らせ致しますので、是非ともご理解いただきご協力賜りますようお願い致します。

同窓会の運営をみますと、基金の果実が超低金利のため小額になり、大幅な財源不足が続いています。運営に当りましては、会員各位の母校に寄せる思いを頼りにしなければなりません。

副会長、各支部の役員の皆さんを始め幹事諸兄の絶大なるご支援を心よりお願い致します。

また、同窓会の活性化は、同窓生の皆さんの、多数のご参加が必要です。

一年に一回開催されます定期総会、各支部の総会へ是非共にご出席して頂き、更にご意見等の投稿などもお願い致します。

清水ヶ丘に学び、同窓に影を映した過ぎし青春の思い出を胸に、共に語り共に飲み交わす友情を大切に、そして我が人生における同窓の存在価値を皆で高めようではありませんか。

同窓会の一層の発展と同窓生の皆さんのご多幸を祈念いたしましてご挨拶とします。



知・徳・体
調和のとれた
若者の育成を

学校長 松 下 勲

平素は、母校の発展に、格別のご支援を賜りまして、誠に有り難うございます。創立百周年記念事業に引き続き、昨年7月には同窓会より進路指導のための「インターネット」を導入頂き、生徒・職員共々大いに活用する中で、過日ホームページも開設致しました。また、63、64回生の方々からは重厚感溢れる素晴らしい校旗をご惠贈頂きました。卒業式から掲揚させて頂いておりますが、お贈り頂いた方々の御心を大切にして、全校で誓いも新たにしている所であります。

さて、母校の近況ですが、平成8年度末人事異動により、中澤延子教頭が長野西高校に転出し、後任として上田高校から松田貞盛新教頭を迎えました。また、この4月には、学校北東に位置する第二グラウンドの整備も完了し、陸上、テニス、ハンドボール等幅広く活用しております。そして、7月には5コースですが、待望のプールが完成致します。

本校教育の柱でもある進学については、昨年3月卒業生徒の現役での4年制大学への進学率は60%と過去最高の結果を出しましたが、この3月も質・量共にそれを凌ぐ良い結果が得られたものと思っております(別記事)。引き続き、長野県下ではトップクラスの進学校として、生徒・父母の願いや期待に応えてゆきたいと存じます。

また、行事関係では、大正4年創始以来の伝統ある諏訪湖一周マラソン大会ですが、車社会での交通事情や諏訪湖周辺のジョギングロードが整備されてきたことなどもあり、昨年度から信号等の無いコースに変更致しました。全長17キロで、これまでのコースに比べ若干短くはなりましたが、参加者は大幅に増え、完走率も100%に近く、新コース初年度としては大きな成果を収めることができました。

昨年夏の全国高校野球長野大会では、長野日大高、松商学園高、信州工業高など強豪を連破し、東海大第三高には惜敗はしたものの、本校開闢以来の準優勝という画期的なモニュメントを打ち樹てることができました。加えて、運動系、文化系を問わず活躍した年でしたが、同窓生の方々からは、各クラブの活動を財政面でもバックアップして下さるという有り難いお話をお伺いし、心から感謝申し上げます。

ご存じの様に、今、我が国は、大量生産、大量消費、大量廃棄型社会の中で、人々の道德意識の低下、社会規範への甘さ、羞恥心の欠如、無責任な言行や言葉の乱れなど、看過できない風潮が見られます。この様な状況を改革してゆくことは一朝一夕にはとても叶いませんが、清陵が進学はもとより、広く知・徳・体バランスのとれた人間性豊かな若者をしっかりと育てることができるよう、引き続き、微力を尽くして参りたいと存じます。同窓生の皆様方には、益々ご健勝で更なるご発展を、と心から祈念申し上げます。

学 校 だ よ り

春雨やわらかに地を潤し、梅はほころび雀囀ずりて清水ヶ丘を寿ほぎし4月5日(土)、新入生285名(うち女子121名)を迎える入学式は厳粛に挙行されました。3月に卒業生322名(うち女子123名)を送り、教職員10名の異動の後、改めて65名の職員構成も整い、全校生徒891名(1・2年各7学級、3年8学級、前年度より1学級減、女子378名、留学による休学7名)で、平成9年度順調にスタートしました。前年度の成果を承けて更なる飛躍をと張り切っております。

現今、本県の高校教育の課題は、「学力向上」「開かれた学校」「教職員の研修」を柱とする「個性ある学校づくり」にあるとされております。本校では、アカデミックな理想主義、自主独立、自治の校風の伝統の継承を大切にしつつも、時代の要請とも言うべき前述の課題を目的意識化し、新たな活力の湧出を企図しております。「学力検討委員会」(本年度「ビジョン委員会」に改組)が中心となり、各教科・学年等に諮って、清陵のあるべき姿を考究しております。生徒の現況に鑑みて「自主自立、生きる力をつける学友会や部活の育成」「一人一人の個性や能力を伸ばす教育課程の選択幅の拡大、充実」等を如何に可能ならしめるかを将来に互る視点としております。昨年度は学校として具体的に次の実践をし、一定の成果をあげることができました。

(1) 教育課程の弾力化：2年次で文・理の二系に、3年次で国立文・国立理・私立文・私立理の四系としました。同一目的

【平成9年度入試結果】

卒 業 生 進 路 状 況						
卒業年月	進 学			就 職		合計
	希望者	進学者	%	希望者	就職者	
平成9年3月	321	220	68.5	1	1	322
平成8年3月	350	227	64.9	2	2	352

私 立 大	9年度	8年度	私 立 大	9年度	8年度
文 教 大	7(4)	8(6)	日 本 女 大	3()	4()
青 学 大	26(15)	13(7)	法 政 大	16(9)	17(6)
学 習 院 大	5(1)	5(2)	明 治 大	19(10)	24(10)
国際基督教大	1()	1()	立 教 大	10(1)	6(1)
慶 應 大	10(4)	16(8)	早 稲 田 大	25(17)	27(18)
国 学 院 大	2(2)	5(4)	同 志 社 大	7(5)	8(6)
上 智 大	9(2)	8(4)	立 命 館 大	27(14)	18(13)
中 央 大	20(7)	18(12)	その他の私立大	191(92)	321(176)
専 修 大	11(7)	8(6)	私 立 大 計	429(215)	586(322)
東京電機大	3(1)	4(1)	短 大 計	10(2)	18(2)
東京理大	15(10)	34(15)	各種専門学校	7()	8()
日 本 大	22(14)	41(27)	文部省所管外大	6()	4(3)

4/10現在 *表中()は過年度生の内数

の仲間の集まりは、切磋琢磨の雰囲気を生んでおります。
(2) 習熟度別授業の導入：3年生の英語、2年生の英語・数学に、きめ細かな指導で基礎固めあるいは伸びる力を伸ばすことができております。

(3) 各教科独自の手づくり教材の作成：学習に対する生徒の興味・関心の度合いが高まっております。

(4) 進路・学習指導各係りによる各種「手引き」の作成：生徒の学習内容・方法また進路選択の良い刺激となっています。

(5) 夏季・秋季・春季の補習等、学力補充学習の実施

(6) 学習室の設置：利用率が極めて高く、3学年の担任が中心に指導に当たってきました。

(7) 講演会：卒業生12名を講師に、2年生全員が志望進路に合わせて分散参加。自己分析とやる気の啓発がなされました。

(8) 外部講師による講義：林秀剛氏(56回生、信大理学部教授)演題「自学習の習慣化」、五味正明氏(65回生、弁護士)演題「清陵でいかに学ぶか」、犬飼剛氏(河合塾)演題「学力と入試傾向」

(9) 職員による県外視察研修：新潟国際情報高等学校・新潟高等学校・富士高等学校・沼津東高等学校を延べ4名の教員で視察、「教育課程」「進路実績」「部活動の実態」等の検討糧を得ました。

これらの、教職員の力を結集させた取り組みは生徒のやる気を喚起し、持ち前の勤勉さを掘り起こし、下の表に見ていただくような進学実績を生み出したのではないかと思います。前年に引き続き好結果であったと申せましょう。不運に

国 公 立 大	9年度	8年度	国 公 立 大	9年度	8年度
北 海 道 大	5(2)	2()	金 沢 大	3()	7(2)
弘 前 大	1()	4(2)	山 梨 大	11(3)	6(1)
東 北 大	8(3)	7(1)	山 梨 医 科 大	1()	0()
茨 城 大	2()	7(3)	信 州 大	23(3)	18(5)
筑 波 大	6(1)	8(1)	静 岡 大	4(2)	6()
群 馬 大	1(1)	1(1)	名 大	4(1)	2(1)
埼 玉 大	4(2)	5(2)	三 重 大	1()	2(1)
千 葉 大	9()	14(5)	京 都 大	3(2)	3(2)
東 京 大	5(1)	1()	大 阪 大	1()	2()
東京学芸大	6()	5(1)	奈 良 女 大	2()	0()
東京農工大	0()	1()	広 島 大	1(1)	0()
東京工大	0()	1(1)	その他の国立大	27(6)	25(13)
東京医科歯科大	1()	0()	国 立 大 計	147(32)	143(49)
東京芸大	0()	0()	高 崎 経 大	1(1)	3(3)
お茶の水女大	2()	1(1)	東 京 都 立 大	5()	3(1)
一 橋 大	2()	1()	横 浜 市 大	1(1)	1(1)
東京外語大	4(1)	1()	都 留 文 大	2(1)	1(1)
横 国 大	4(1)	5(1)	他 の 公 立 大	11(4)	12(2)
新 潟 大	4(1)	8(5)	公 立 大 計	20(7)	20(8)
上 越 大	2(1)	0()	国 公 立 大 計	167(39)	163(57)

郷里に錦を飾る

政府登録国際観光旅館

TEL 026-615-8100(代)

取締役社長 山崎壮一 (51回)

取締役 山崎澤子 (56回)

ふるさとに集う

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

クラス会・同窓会
励ます会・壮行会
創立記念パーティ
出版記念パーティ
ゴルフコンペ
各種謝恩パーティなど
ご利用いただけます

浜の湯

も今春進学達成をなし得なかった生徒も、学力を蓄え得て、今は捲土重来を期しているものと推察します。

「開かれた学校」への試みとしましては、同窓会のご支援により購入した 3 台のパソコンを進路指導室と図書館に設置し、インターネット・ホームページを開設しております。生徒は、進学情報や大学の授業内容を調べたりと、積極的に利用しております。OB の方々が本校のホームページを引き出して下さってもおります。URL は <http://www.avisnet.or.jp/~seiryosh/>

社会人講師の活用も実施しております。昨年 7 月には、金子佳正先生 (51 回生、元本校勤務) をお招きし、「三澤勝衛先生の求めていたもの」と題して、全校生徒有志を対象とした講義と座談会を開きました。三澤先生の魂を引き継がれた個性的で魅力あるお話は、生徒の深い感動を呼びました。11 月には「美術」の授業で、根岸芳郎氏 (72 回生、現代美術家) に「自己の創作コンセプトと絵画の歴史」をテーマとする講義を 3 時間お願いしました。受講した 1 年生は、難解とされる現代美術を身近なものとして理解できました。本年度は、長野オリンピック、パラリンピック「一校一参加活動」に関わって、大和鈴子氏 (ふしぎな花倶楽部インストラクター) を講師に依頼し、競技選手・役員へのお土産にする「押し花」の作成を進めております。

部活動の活躍状況につきましては、近年になく著しいものがございました。生徒は、学年を越えて仲間意識を涵養し、技術の向上、心身の錬磨あるいは専門分野の深化を第一義として活動しているわけですが、形として現れた成果は、学校全体の活力源ともなっております。

野球部は、全国高等学校野球選手権大会長野大会において、はじめて決勝まで進み、1 対 3 と東海大第三高等学校に惜敗しましたが、みごと準優勝の栄誉に輝きました。選手達は春の敗退を反省材料とし、ミーティングを重ね、キャプテンを中心に選手間の意志疎通を完成させました。サッカー部などと共用するグラウンドで有効な練習を積みしました。茶城監督 (86 回生) の「文武不岐」のモットーの結実を示しました。本校の活躍はまた、県下の公立高校に多大な刺激と希望を与えました。

端艇部は、宮坂麻里、下鳥まどか組が女子ダブルスカールで、中日本レガッタ優勝、北信越総合体育大会優勝、インターハイ全国第二位 (過去最高) と大活躍しました。県教育委員会からの表彰も受けました。

テニス部は、長野県総合体育大会で男子団体優勝、男子ダブルス (花岡・今井組) 優勝、さらに北信越総体でも男子団体第二位と、かつてない好成績を収めました。この結果、本年 3 月北九州市での全国選抜大会にまで出場しました。

陸上部は、長野県総合体育大会男子 1600m リレー第二位、女子砲丸投げ (津田詩織) 第三位で、それぞれ北信越大会に進出し活躍しました。

生物部は、「八ヶ岳立場川におけるミヤマシロチョウの減少とその原因」としてまとめた研究で、長野県学生科学賞、県知事賞、全国学生科学賞入選一等賞を獲得しました。顧問の岩崎教諭の話では、「高山蝶の種の内、絶滅が最も危惧されるミヤマシロチョウの、25 年にわたる本校生徒の観察記録データを、今のうちにまとめたもの。今後は学術論文として発表することをテーマとしている」ということです。ところで、本校理科教育振興基金のもとにまとめられた「理科研究集録」(平成 8 年版) も立派な内容の冊子であります。

囲碁同好会では、浜裕史君が長野県高校生囲碁選手権大会で優勝、全国高校生囲碁選手権大会では 2 回戦まで進出しました。

クイズ同好会は、全国高校生クイズ選手権大会で長野県代表に選ばれ、全国大会に 3 年連続出場して活躍しました。

以上部活動の主だった活動成果についてみてきましたが、特筆すべきは、これらの自主活動において大活躍した生徒達が、ほとんど自分の志望大学への進学を果たしたということです。清陵生本来の精励勤勉の美風を明快に看取させてくれる快挙と申せましょう。

同窓会におかれましては、本年度から、大会出場の選手諸君への経済的ご支援をより手厚くして下さる決定をして頂き、感謝の限りであります。

◇今年度の主な学校行事

清陵祭 7/19 (土) ～21 (月)、端艇大会 9/16 (火)、湖周マラソン 10/21 (火)、2 年生研修旅行 11/11 (火) ～14 (金)、卒業式 H 10.3/7 (土)

◇平成 8 年度末人事異動

<転出> 中澤延子教頭 (数学、長野西高校へ)、牧野内昇教諭 (数学、東部高校へ)、西牧岳哉教諭 (理科、木曽高校へ)、北原勉教諭 (理科、阿智高校へ)、林恵美子教諭 (英語、田川高校へ)、真田功教諭 (体育、松本県ヶ丘高校・豊科高校へ) 島田まさみ主事 (上小地方事務所へ)

<退職> 小口祐一講師 (国語)、柳沢和夫講師 (社会)、戸田哲夫講師 (英語)

<転入> 松田貞盛教頭 (国語、上田高校より)、大沢東教諭 (数学、軽井沢高校より)、春日隆史教諭 (理科、高遠高校より)、赤羽祐史教諭 (英語、小諸商業高校より)、横内佳代講師 (社会、木曽高校より)、佐々木英雄講師 (保体、諏訪実業高校より)、竹村一司講師 (数学)、林つる子主査 (岡谷工業高校より) (教頭 松田貞盛 記)

東 海 支 部 だ よ り

東海支部は、名古屋市を中心に愛知県、岐阜県、三重県の各方面で活躍している同窓生約 170 名をもって構成しています。

昨年は母校百周年にあたり、何か記念になる物をということで協議した結果、陶芸の里、瀬戸市赤津の霞仙陶園に黄瀬戸の諏訪湖を模した大盃と、八ヶ岳・諏訪湖の織部の陶額を作って貰い贈ることができました。

又、顧問である愛知芸術文化センターの総長である飯島宗一氏が勲一等の叙勲の栄に浴しました。

去る平成 9 年 2 月 15 日に第 14 回の定期総会を開き、40 名の会員諸氏が集まりました。海のなかった諏訪で、戦艦大和の最後の艦長であった有賀勇作さんはじめ海軍で働いた人々の本「海こそなけれ」が出版されたので、その中心で努力された茅野市 46 回生の小川善弘さんをお招きして、諏訪中と海軍の話をお聞きし、先輩の一つの軌跡を回顧することができました。

そして松下勲校長先生から最近の母校の情況、文に武に、特に野球、テニス、ボート、囲碁など活動している報告を聞き、更に同窓会副会長有賀裕さんからユーモアたっぷりの百年祭とクラブ活動支援と今後のあり方などの報告をいただき、一層同窓会の結束を誓い合いました。

総会は別記のように役員を選び、テーブルを囲んで大いに歓談しました。最後に 52 回生の原美佳雄さんの指揮による「東に高き」「ああ博浪の」校歌を母校在校当時を偲んで声高らかに合唱し、明日の活躍を誓いながら散会しました。

なお、東海支部は 1976 年に創立し、14 回の総会を開いてきました。故吉江佐太郎 (33 回)、奥山 清 (32 回) 両先輩と錦見高弘 (42 回)、山田一次 (42 回) の各氏らが骨折って結成され、今日の隆盛をみています。 (小山良治)

支部役員

支 部 長	小山良治 (42 回)	顧 問	藤森耕介 (40 回)
副支部長	竹村 弘 (44 回)		山田 昌 (40 回)
	小林 猛 (51 回)		飯島宗一 (41 回)
	平林国雄 (60 回)		錦見高弘 (42 回)
事務局長	矢崎武一 (52 回)		
会 計	小松久夫 (59 回)		

長 野 支 部 だ よ り

毎年恒例として行われている諏訪清陵高等学校同窓会長野支部総会が、今年も平成 9 年 2 月 21 日、長野バスターミナル会館国際ホールにおいて盛大に開催されました。

当日は、みぞれの降る中にもかかわらず、女性 2 名を含む総勢 80 名の参加となりました。

高見澤忠明幹事の開会挨拶に続く、茅野實長野支部長の挨拶の後、わざわざ、総会にご出席いただきました宮坂久臣諏訪清陵高等学校同窓会長、松下勲諏訪清陵高等学校長より来賓挨拶をいただきました。

懇親会では世代を越え、懐かしい顔を見つけては、当時の思い出話に花を咲かせ、時間が経つのも忘れ、仲間の輪が次第に広がっていきました。会の盛り上がりの最高潮は、なんといっても、校歌斉唱です。殆どは歌詞を見ないで歌い、手拍子を取り、肩を組む輪も大きくなりました。時間の関係で、第一校歌、第二校歌から抜粋しての斉唱でしたが、やはり全部通して歌いたかったとの声も聞かれました。校歌は参加者にとって一番の思い出なのでしょうか、県の北の地にあって、気分は若かりし日の清水が丘に戻っておりました。

あっという間の 2 時間の同窓会でしたが、名残りは尽きなく、その後、会場を移し、夜の更けるのも忘れて語り合った会員も多かったようです。

当支部は、昭和 51 年の総会において、当時の世話人の皆さまの熱意により会則が作られ、以来、会員の親睦をはかってまいりました。毎年 1 度行われる総会は、当初は長野県職員の方が中心になって運営してきましたが、現在は、長野県のほか、NTT、信濃毎日新聞、信越放送、八十二銀行が交代で幹事を務め開催しております。長野市および北信地区に在住する者をもって会員とするという会則のもと、北信へ転居、転勤された方々には是非ご連絡いただき、支部活動が一層盛大になりますよう期待しております。

北信地区におきましては、1998 年長野冬季オリンピック大会、パラリンピック大会を間近に控え、各種競技のプレ大会が、オリンピック会場を使用して開催されるなど、施設面・運営面での整備が急ピッチで進み、町全体が活気に満ちています。我々会員もそれぞれの立場から、オリンピックが成功のうちに終了し、住み良い街に生まれ変わって行くよう、協力を惜しまず、更なる前進を続けていきたいと思ひます。

EPSON

驚異の写真高画質。
エプソンが変える、カラープリンタの新基準。

new Colorio
カラー

新登場

PM-700C

標準価格 ¥59,800 (税別)



セイコーエプソン株式会社

〒392 長野県諏訪市大和三丁目 3 番 5 号 ☎0266-52-3131 (代表)

地域づくりのパートナー

諏訪信用金庫

会長理事 山岡利平 (28回)

理事長 宮坂久臣 (49回)

本店 長野県岡谷市郷田 2 丁目 1 番 8 号

支部活動報告

支部名 (会員数)	支部役員名・連絡先	平成 8 年度支部総会 日時・場所・参加者・内容	平成 8 年度活動内容	平成 9 年度活動計画
富士見 (180 名) 他調査中	支部長/細川 昭(46 回) 副支部長/五味 昭二(46 回) 小林 亙(50 回) 事務局/古 屋真一(77 回) 〒 399-02 富士見町富士見 8270 ☎ 0266-62-6394(細川 昭)	平成 9 年 3 月 13 日 油屋旅館(富士見町)22 名 ◇本部より有賀副会長・松下 学校長来会) ◇事業・会計報告等	◇清陵富士見会(東京) との交流 ◇逝去会員弔問(0 名) ◇会員の掌握	◇会員名簿発行 ◇清陵富士見会との交流 ◇研修 ◇定期総会(平成 10 年 3 月 予定)油屋旅館
原 (90 名)村外 在住者の特 別会員 150 名)	支部長/小林貢三郎(52 回) 副支部長/中 村正英(59 回) 〒 391-01 原村 7977 番地 ☎ 0266-79-2717(中村正英)	平成 8 年 3 月 9 日 原村中央公民館 17 名 ◇平成 7 年度事業・決算承認 ◇平成 8 年度事業計画・予算 承認 ◇講演会 細川幸二(51 回)	◇役員会 2 回 ◇広報「はら」 ◇原中 50 周年記念誌 注文書を同封して総 会通知書送付	◇定期総会 平成 9 年 5 月 3 日 原村中央公民館 ◇講演会「縄文のビーナスに ついて」武居幸重(57 回) ◇名簿の整備 ◇村外在住会員に「広報は ら」等の情報提供 ◇逝去会員弔問
茅 野	支部長/丸茂恵司(50 回) 副支部長/矢崎 斎男(51 回) 事務局長/永澤俊是(52 回) 〒 391 茅野市塚原 1-3-20 茅野商工会議 所内 ☎ 0266-72-6181(永澤俊是)	平成 8 年 11 月 21 日 支部幹事会 上条食堂(塚原) 平成 9 年 2 月 25 日支部総会 岡島ローヤル会館 85 名 平成 9 年 3 月 27 日 支部幹事総会反省会 橘食堂 (駅前)	◇事業報告、組織強化 支部活動計画等々 ◇役員改選、母校現況 報告、講演会「あさ ま山荘事件」の真実 講師/北原薫明氏	◇定期総会 平成 10 年 2 月頃 岡島ローヤル会館 ◇講演会 ◇研修視察
諏 訪 (1,818 名)	支部長/宮坂祐次(51 回) 副支部長/飯田 節夫(58 回) 関 敦子(67 回) 会計/牛山 孝(59 回) 事務局/茅野嘉利(57 回) 〒 392 諏訪市小和田南 10-9 ☎ 0266-52-6839(宮坂祐次)	平成 8 年 11 月 13 日 180 名 諏訪シティホテル成田屋 ◇事業・会計報告◇組織強化 ◇講演会「今子供達の世界で起 きていること」 内田良子氏(64 回)		◇定期総会平成 9 年 11 月 中旬 諏訪シティホテル成田屋 ◇講演会
下諏訪	支部長/三井章義(51 回) 副支部長/有賀 公雄(47 回) 酒井敏夫(56 回) 小口 剛 (59 回) 会計/小口章夫(57 回) 〒 393 下諏訪町 3534 ☎ 0266-27-8003(三井章義)	平成 9 年 5 月 11 日 ぎん月(下諏訪)		◇定期総会 平成 10 年 3 月予定 ◇クラブ活動助成金につい て会員に周知徹底
岡 谷	支部長/山岡正邦(48 回) 副支部長/山岡利 行(49 回) 鮎沢茂登(59 回) 宮坂照彦 (60 回) 顧問/林 憲一(28 回) 山岡利平 (28 回) 高木常雄(33 回) 〒 394 岡谷市郷田 2-1-8 諏訪信用金庫内 ☎ 0266-23-4567(守屋)	平成 8 年 7 月 17 日 ホテル岡谷 131 名 ◇飯島宗一先生(41 回)の勲一 等瑞宝章受賞祝賀会を併せ て実施	◇前支部長宮坂久臣氏 が同窓会長になられ た為役員改選。 新支部長に山岡正邦 氏が選出された。	◇定期総会開催 (平成 9 年 3 月 22 日) ホテル岡谷 100 名
上伊那 (250 名)	支部長/矢島 昭(46 回) 副支部長/赤坂 良雄(52 回) 常任幹事/木見尻康彦(49 回) 伊藤隆一(58 回) 林 靖(62 回) 矢ヶ崎 克彦(64 回) 勅使河原明英(66 回) 〒 399-04 辰野町宮木 4038 ☎ 0266-41-0664(矢島 昭)	平成 8 年 4 月 21 日 たつのパークホテル 61 名 ◇事業・会計報告 ◇役員の一部改選 ◇講演会「小平物語について」 39 回 赤羽 篤氏		◇定期総会 平成 9 年 4 月 27 日 たつのパークホテル ◇講演会 「博浪の槌」について 44 回 山岸 淳氏
松 本 (410 名)	支部長/守矢武久(56 回) 常任幹事/林 秀剛(58 回) 朝倉周一(59 回) 藤森邦秀 (65 回) 会計監査/千代 務(58 回) 〒 390 松本市出川 3-5-28 ☎ 0263-26-1039(守矢武久)	平成 8 年 11 月 16 日 4 時より 於：信州会館 19 名 ◇会務・会計報告 ◇役員改選(再任された) ◇講演会「県保健所行政の現状 と課題」59 回 平林正行氏 豊科保健所環境衛生課長 ◇懇親会		◇定期総会 平成 9 年 11 月中旬の(土) 於：信州会館 ◇講演会 ◇名簿の整備 ◇懇親会 当番幹事 64 回生
長 野 (222 名)	支部長/茅野 實(52 回) 副支部長/戸田 正明(60 回) 瀬木 潔(62 回) 幹事/伊藤 博(69 回) 〒 380 長野市合戦場 1-22 ☎ 026-293-8226(伊藤 博)	平成 9 年 2 月 21 日 80 名 長野バスターミナル会館 ◇事業・会計報告 ◇役員選出		◇定期総会 (平成 10 年 2 月頃)
東 海 (160 名)	支部長/小山良治(42 回) 副支部長/竹村 弘(44 回) 小林 猛(51 回) 平林國雄(60 回) 事務局長/矢崎武一(52 回) 会計/小 松久夫(59 回) 顧問/藤森耕介(40 回) 山 田 晶(40 回) 飯島宗一(41 回) 錦見高 弘(42 回) 〒 460 名古屋市中区富士見町 3-26-301 ☎ 052-321-3272(矢崎武一)	平成 9 年 2 月 15 日 43 名 ホテルアソシア名古屋ターミ ナル 松下校長・有賀副会長 ◇会計・活動報告・役員改選 ◇講演会「海こそなけれ」 講師 小川善弘(46 回) 校歌斉唱 ◇懇親パーティー	◇母校創立 100 周年に 対し瀬戸市陶芸作家 による鉢、額等を贈 ること、記念集會に 多数参加すること等 のための準備活動を行 った。	◇会員相互の親睦を図るた めの行事を組みたい。 ◇母校クラブ活動助成につ いて協力することに努め たい。
東京清陵会 (4,070 名)	会長/寺島敏郎(50 回) 副会長/林 尚孝 (52 回) 洲上良子(56 回) 事務局長/林 尚孝(52 回) 〒 270-11 我孫子市白山 2-15-2 (林 尚孝) ☎ 0471-83-2726 FAX. 0471-85-8121 ・関東 1 都 6 県にお住いで東京清陵会に登 録されていない方は事務局までご連絡下 さい。東京清陵会だより第 8 号および総 会通知を 8 月にお送り致します。(年会費 600 円)	平成 8 年 10 月 25 日 虎ノ門パストラル(港区)305 名 ◇事業報告・会計報告 ◇八剣太鼓打ち鳴らし ◇小平恒彦先生バステル画展 ◇上原三枝選手写真展示 ◇上原三枝選手激励会場募金 (185,400 円) ◇記念品(記念手拭い)配布	◇「東京清陵会だより」 第 7 号の発行	◇第 31 回総会開催予定 (平成 9 年 10 月 9 日) 虎ノ門パストラル 会費 8,000 円 ☎ 03-3432-7261 議題/事業報告、会計報告 当番 64 回生、65 回生(サ ブ) ◇「東京清陵会だより」 第 8 号の発行 ◇親睦ゴルフ大会

寄 稿

創立 100 周年記念に特別講演をして下さった江藤淳先生が新聞に書かれた随想を、36 回の小林七三郎さんが読み、「庚午同級会」の折りにそれを窪田十寸穂さんに渡された。これを読んだ窪田さんが、同窓生全員に読んでほしいと言うことで投稿されたものを江藤先生のお許しを得て掲載致します。

五十年目と五十一年目

江 藤 淳

この夏は、いろいろな都合から軽井沢に行くのが十日ほど遅れた。そろそろ出掛けるとしようかと、準備をはじめたところへ、作家の後藤明生さんから電話があった。「もう軽井沢かと思って、連絡してみたらまだのようでしたのね。いつこちらへ来ますか」

後藤さんは、どうやら信濃追分の別荘から電話して来たらしい。来週には行きますよといったら、頼みたいことがあるので、それじゃあ千ヶ滝の私の山小屋を訪ねたいという。

その頼みというのは、後藤さんが文芸学部長の職に在る近畿大学でこの秋に講演をしてもらいたいという依頼だった。執筆のかたわら、後藤さんが文芸学部長の務めに精励していることは、文壇でもかねがね評判になっている。

それにしても、後藤さんはたしか関西の出身では無いはずなのに、どうして近畿大学の要職を引き受ける心境になったのだろう。以前から訊いてみたいと思っていたことなので、この機会に質問すると、驚いたことに、それが壇一雄の縁なのだというのである。

後藤さんは若い頃、作家壇一雄と親交があった。その壇一雄がやっていた「ポリタイア」という同人雑誌の仲間に、世耕政隆という詩人がいた。後藤さんは「ポリタイア」の同人というわけではなく、いわば飲み友達として壇一雄のところに出入りしているというに過ぎなかったが、そのうちに世耕氏とすっかり肝胆相照らすようになった。

その世耕氏が近畿大学の総長で、文芸学部の創設に当り、是非にあって後藤さんの協力を要請したのだという。なるほど聞いてみればもっともな話で縁は異なものというほかない。爾来後藤さんは学部長としての仕事に献身し、ついに大

学院の創設にまで漕ぎつけてしまったのだから大したものである。

この話をきいたとき、だから近畿大学は文芸学部で、文学部ではないのだと、私ははじめて得心したような気持ちになった。作家後藤明生が、自ら学部長として手塩にかけた学部だからという意味合いも、もちろんないわけではない。しかし、そのほかに、ここにはいわば文学史的な意味合いも伏在しているようだと、私はそのことに思い当たったのである。

同じ文芸学部を設置している大学には、例えば成城大学がある。今から三十年以上前、私は成城大学文芸学部、一学期だけ非常勤講師として出講していたことがあった。当時の学部長は栗山理一教授で栗山教授は「ポリタイア」の先駆者ともいうべき、雑誌「文芸文化」の同人の一人だった。

蓮田善明・池田勉・栗山理一・清水文雄という、四人の若い国文学者が昭和十三年(1938 年)に創刊した「文芸文化」こそは、文献学的・分析的な研究方法を排して、文芸学的・唯美的方法を提唱した学界・文壇を通じての新風であった。

この雑誌の衣鉢を継いだ栗山教授が、戦後旧制の成城高校が新制大学になったとき、文学部ではなくて敢えて文芸学部の名称を選んだのは、むべなるかなといわなければならない。その栗山先生に、私はただ一度だけお逢したことがあった。

着任の挨拶だったか、一学期だけ勤務してプリンストンへ行ってしまうことへのおわびの挨拶だったか、今となっては思い出せないが、先生の温顔はよく覚えている。

後藤さんと話していて、その温顔を思い出した瞬間に、私はもう一つのことを思い出していた。

それは蓮田善明の文学碑であった。過ぐる今年の三月末、現在「文学界」にときどき書いている「南州残影」の取材のために、鹿児島と熊本を旅したとき、私は田原坂の戦跡で、思いがけなくも「蓮田善明先生文学碑」という、ささやかな石柱に目をとめたのである。

見るとそのかたわらには、自然石の側面を削って、一首の短歌を彫り込んだ文学碑が建っていた。

ふるさとの 駅におりたち 眺めたる
かの薄紅葉 忘れえなくに

と読めた。

そうか、田原坂のある熊本県植木町は、蓮田善明の「ふるさと」だったのか。そう思ったとき、一種哀切な疾風のようなものが、身体を吹き抜けて行っった。

それにしてもこれは、なんとつつまじやかな文学碑で、なんとあえかな歌ではないか。ここには、非命に斃れた詩人の

最先端技術にはロマンがある

理想を追究したツイストノイズカットトランス
ノイズ障害防止の切札で、近未来に先駆けるト
ランスです



株式
会社

電研精機研究所

代表取締役 矢ヶ崎昭彦 (47回)



高度情報化社会のアキレス腱＝不要電磁波・ノイズ障害の防止に尽くす

本社・工場／〒203 東京都東久留米市八幡町1-4-21
TEL: (0424) 73-3745(代) FAX: (0424) 74-0613
大阪営業所／〒550 大阪府大阪市西区新町1-7-5 四ツ橋天祥ビル5号館
TEL: (06) 538-1118 FAX: (06) 538-2777

記憶を守ろうとする、ふるさとびとの真情が込められているではないか。感じ入ったきり、私はしばらくその前に立ちつくしていた。

いうまでもなく、蓮田善明は、「文芸文化」の編集名義人で、栗山教授の僚友だった人である。旧制成城高校で教鞭をとり、当時学習院中等科の生徒だった三島由紀夫を発見して、その処女作「花ざかりの森」を世に出したことで知られている。昭和十三年十月と、十八年（1943）十月と、蓮田は再度応召しているが、塹壕のなかからも、詩歌や随想を「文芸文化」に送りつづけていた。

陸軍中尉としてマレー半島のジョホールバルで終戦を迎え、日本の敗戦に痛憤して、その直後にピストルで壮烈な自殺を遂げた。享年四十一。

その蓮田善明のことを、田原坂の戦跡の片隅にあるその文学碑のことを、私は思い出していた。

後藤さんの来訪を受けて二、三日経ってから、私は「南州残影」の執筆に取りかかったが、ちょうど田原坂を訪れたときのことを書いていて、その日が蓮田の命日だったことに気が付いた。八月十九日であった。

戦後五十年というのは八月十五日で終わったのかも知れない。だから八月十九日というのは、五十一年目なのかも知れない。だが五十一年目になってもそのあとになっても、蓮田の文学も、あの「薄紅葉」の歌もいきている。いや、蓮田の死そのものが生きていて、そのとき私は思った。

蓮田善明先生のこと

窪田十寸穂（36回）

読み終わって、胸の熱くなるのをおぼえた。記憶の中に出てくる蓮田先生は長髪で白晰の容貌をした、意志のつよそうな青年教師であった。

ともすれば、古い伝統にとらわれがちな学校に、新風を吹き込み、自主と自由を教えられた。入学した時のクラス主任で、国語と作文の授業をうけた。

諏訪の地に三年いて、広島文理科大学に復学するため去っていった。（昭和4～6年在職「百年史」p.76参照）

やがて戦争になって、ほとんどの仲間たちが戦場に駆り出され、三十五名の人達が若くして命を断った。蓮田先生のこと、戦後何年かして聞かされて驚いた。そしてあの戦争のことを振り返ってみた。ジョン・オズボーンならずとも。

五年限まえ、由布院・熊本の旅をしたとき、田原坂の先生の歌碑を訪れた。あの時は、早春の日暮れた日であったが、公園の片隅に、人目を憚るように建てられた歌碑は悲しかった。この度日経新聞の江藤先生の文をよんで、今は、明るい日差しに照らし出された思いがしています。謹んで蓮田先生のご冥福をお祈りします。

平成八年度庚午同級会をまえに。



校旗寄贈のこと

63回生による平成8年度諏訪清陵高校同窓会定期総会の開催準備は、一年半程前から進められていたが、その中で「母校の校旗が古くなったので新しいものを考えてはどうか」との声が出た。検討の結果、金額が大きくなるため64回生にも共同寄贈を呼び掛けたところ賛同を得た。総会の席上当番幹事63回生の松木義文代表と次年度幹事64回生の小松修治代表から母校へ新しい校旗の寄贈が行われた。

新しい校旗は、本絹糸、綾錦生地、縦80cm、横115cmの大型、最高級品。紫地の中央部に金色の刺繍で校章をあしらひ、四方に金モールを付け、2m余りの支柱の最頂部には本金めっきの飾り金具が付いている。

松木義文（63回）

清陵出てから37年

同窓会幹事学年の昭和33年入学64回生（ザザムシ会）の中の特に忙しい人（？）に近況や思い出を寄せて頂きました。当時7クラスあったので、各クラス一人で編集を進めてきましたが、今号は内容が盛り沢山だったため、編集委員の独断で6部の友に遠慮して頂きました。悪しからず。

親友の死 清水茂文(64回)

山梨県小淵沢町出身
1962年 京都大学医学部入学
1970年 佐久総合病院研修医
1972年 清里聖路加診療所へ勤務
1981年 佐久総合病院内科へ勤務
1990年 佐久総合病院附属小海町診療所長
1994年 佐久総合病院副院長

著書
「医師の見た農村の変貌」
（勤草書房・共編著）
「自分らしく死にたい」
（小学館・共著）



その日は、夏休みが終わったあとの小雨模様の日だったように記憶している。「シーさん、俺今朝汽車から飛び降りたんだ」とK君は言った。僕は一瞬、何のことだか分からなかった。K君は「汚れちゃった」と言って、レインコートに付いた草色のしみを見せた。その表情は幾分はにかんで見えたが、淡々としていた。

彼とは高校時代2年半を通じ、無二の親友でつがいのようなものだった。彼は人柄とマスクの良さもあって、女性にもてた。彼女との諏訪湖でのデート、僕は何回もピエロを演じたが「シーさん、すまんあー」と言われれば、むしろその気持ちの通い合いがうれしかった。

先の出来事があったから何日か経ったある朝のことだった。登校して間もなく担任の教師から、「K君がクスリを飲んで、自殺を図ったらしい」と聞かされた。僕は一瞬、やはり何のことか分からなかったというより、この時点から記憶の断絶がある。この断絶は、精神病理学的にみて説明可能なようだ。

次の記憶は、彼の入院していた病室から始まる。女の色白は七難隠すと言われるが、普段の彼は色白で実に血色がよかった。しかし、この日の彼の顔は血の気が失せて青白く、いつもの彼とはまるで違っていた。この時ふと死を実感したが、それはかなり浮わつたものだった。

病室の中にいるのが恐かった。廊下に出てウロウロしていた。看護婦詰所の前を通ると、中から「ワッハッハ…」と信じられぬ音声が聞こえてきた。詰所にはカーテンが閉められていたが、ふと覗いてみると医者も看護婦もお茶を飲んでた。怒りと悔しさがからだの芯を貫いた。これは夢をみているのだと自分に言聞かせたが、この時はじめて涙が噴き出した。のちになってこの体験が僕の進路を決める大きな伏線になったが、この時点ではまだ自覚していなかった。

医者になってからこの事実と本質を理解した。患者関係者にとって異常に見える風景も、医療者にとってはごく日常的な風景なのだとすることを。今日でもこの感性の鈍磨は、医療現場を支配しているように思える。いま話題になっている「脳死問題」は、右眼で技術・左眼で人権をという複眼的視点の確立にあると思うが、それ以前に医療の内側は世間的感性を我がものとすべきではないだろうか。理屈ではなく、気持ちが問われているのだ。

K君は死んだ。怒りと悲しみに包まれたと言いたところだが、ひたすら呆然としたというのが正直なところである。その証拠というわけでもないが、彼のご両親や兄さんたちは僕が後追い自殺をするのではないかと心配したという。

お葬式の当日のことは、鮮明に記憶している。弔辞を読もうと立ち上がったとたん、足がしびれてひっくり返ってしまった。倒れる瞬間、そばにいたお坊さんの首にしがみついたからお坊さんもひっくり返ってしまった。まず途方もなく困った。実に恥ずかしかった。そして堪え難い可笑しさが込み上げきた。弔辞のことなど全然覚えていない。葬儀が終わっても可笑しくて笑えて、泣く真似をして必死でごまかしていた。この体験はその後の生涯において正座するたびに思い出し、ついでにK君を必ず思い出すことにつながっている。高校生でゴリーキーの「どん底」を演じた彼は、いつもユーモアがあった。

いそがしい、すす



タケヤみそ

株式会社 竹屋

本社／諏訪市湖岸通り2-3-17 ☎(0266)52-4000
松本工場／松本市南松本2-16-22 ☎(0263)25-2552

取締役社長 藤森郁男 (62回)

専務取締役 藤森諄二 (64回)



昭和シェル石油特約店

株式会社 細川商店

諏訪市諏訪二丁目10番4号 ☎本店(0266)52-3737(代)

代表取締役 細川昭八 (51回)

専務取締役 細川洋一 (84回)

常務取締役 細川浩二 (86回)

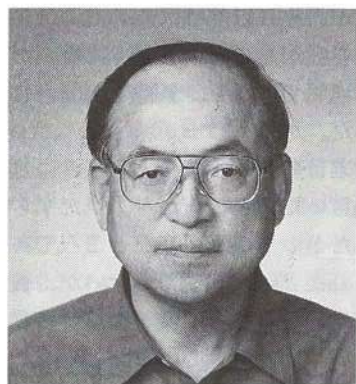
取締役 宮坂友比古 (67回)

相談役 矢島千晴 (41回)

国際標準化活動と規格戦争

小口博義(64回)

昭和36年 諏訪清陵高校卒業
昭和41年 千葉大学工学部(機械)卒業
昭和41年 東洋バルブ(株)入社
昭和47年 米国現地法人販売会社出向
昭和54年より東洋バルブ(株)設計部所属
現在:東洋バルブ(株)生産本部長代理兼技術部長
ISO/TC153/SC1国内委員
趣味:旅行、読書
近況:仕事に追い廻され多忙な日々を送っています。卒業以来、ごく僅かな級友にしか会う機会がありませんでしたが来詠の折は是非連絡ください。



ここ2年ほどバルブ製造業界の代表委員として、製品規格作成のための国際標準化活動に従事し、欧州各地で開催される会議に出席しているので、そうした活動を通じての感想を述べてみます。

戦後50余年が経ち日本も先進工業国の一員となったが、戦後の産業復興時には色々な面で米国からの経済援助・技術援助を受け国の基幹産業も順調に回復し、昭和30年代からの目ざましい経済発展につながったと思います。そうした過程において勿論日本工業規格はあったが、米国からの技術援助や購入した工業製品は米国規格に基づき製造されたものが大半で、今日においても私共バルブ製

造業界は米国規格の影響を大いに受けています。特に石油・ガス工業関係の製品は、米国規格により設計・製造されているのが現状であります。

一方、工業製品に関する国際標準化活動とは簡単に言えば、標準化された仕様を持つ商品が国境を越えてどこの国でも使用者が入手できる国際基準作りと言えるでしょう。

しかしながら、現実には各国とも独自の工業製品規格を持ち、それ等の規格化の歴史的背景や文化も異なることから規格原案作りの作業部会はどの国が議長国になるかによって大変な様変わりとなり、欧州各国と米国間では毎回非常に緊迫した議論を戦わす場面が多く見受けられます。欧州12ヶ国は欧州統合をすべく目下努力中ですが、標準化活動の国際会議でも未だ欧州参加国がそれぞれ一票の投票権を有しているため、規格化作業でもその影響がはっきりと出て来ています。同時に欧州連合は独自に工業製品規格を国際標準化活動を上廻るスピードで作成中であり、個別規格審議になるとそれ等を採用するよう強く主張してきます。一方、バルブ関連の日本工業規格や団体規格はある特定用途分野では米国規格の影響を色濃く受けて制定されているが、細部では欧米規格内容と異なるため、国際会議の場では共通性に乏しく孤立することもあります。また、各国代表委員がすべての参加国の規格に精通している訳ではないので、時々誤解から生ずる審議中断・休憩が続き、意見調整に手間取ることもあります。例えば、ドイツの委員から「日本では、米国規格に倣ってバルブを製造していると思っていた。」との発言も飛び出し、極端ではあるが参加国の規格制定状況への不理解には驚かされました。私共を取り巻く国際的環境や国内製造業者の実情を勘案するとき、バルブ国際規格

原案作成の会議では日本工業規格をできる限り広報し採用するよう各国代表委員に理解を求めると同時に、米国規格の国際統一規格への採用に協力することが最良策と判断しています。米国規格は非常に整備され、世界的に観てもその普及度は高いが、国際統一規格原案作成会議では、欧州各国は団結して特定国の規格をできる限り採用しないという大義名分のもと、その普及実績は尊重しつつも拒絶する発言が会議の度毎に出ています。また、国際標準化推進計画が大巾な遅延を余儀なくされる場合には、欧州連合規格が代案審議されるというウィーン協定も欧州連合と国際標準化機構間で締結されていることを考えると、国際標準化活動とは言っても各国間の規格戦争とも言えそうです。

米国や欧州代表委員の発言内容から感じられることは、国際会議にのぞむ際の原理・原則或いは戦略が各国規格協会を中心にきちんと決められているようですが、日本の場合は明確な指針がなく業界団体に委ねられていることが大きな違いです。国政レベルでは、国際標準化活動を積極的に推進し、長期工業規格化推進計画の中では制定された国際統一規格は積極的に日本工業規格の中に採用していく指針が出ているが実用化段階に至るには、まだ相当の年月を要すると判断されます。勿論、分野によって採用時期の差異は大きいと思います。

いずれにせよ、欧米諸国と異なる規格内容を有する日本工業規格の場合、言葉のハンディキャップや地理的な不利条件はあっても、こちらの主張は臆することなく発言し、できる限り欧米委員からの理解を得られるよう活発なる交流を図り、解決策を見い出してゆかねばならないと痛感しています。

金色の民いざやいざ...

諏訪市出身
明治大学卒業
(株)イースタン入社(茅野市)
プリント配線板製造に従事
現在に至る

現在
(株)イースタン常務取締役
リノス(株)専務取締役

(スポーツ関係)
長野県競技力専門委員
長野県卓球連盟競技力向上委員長、常任理事
諏訪市卓球協会理事長

30年以上もの昔、まだ学校に女子生徒が2~3名しかいなかった良き時代の高校生の時、なにかの間違いかそれともその年の長野県のレベルが低かったのかは定かではないが、全校生徒の前に立たされ「金色の民の歌」を歌ってもらいつつ壮行会を開いていただき、インターハイの卓球競技にたった一人で参加した。(もちろん先生も同行してもらえなかった)

この時のたった一度だけの過ちが自分でも気付かないうちに卓球とのかかわりとなりその後長野県国体選手、又長野県成年男子、成年女子等の団体監督として20年以上たつ。「やめたい」、「もうやめてもよい」と思っているがなかなか足が洗えないでいる。人の運命とは不思議なものであり恐ろしい。

我々の時代は、運動部といえばボート部程度しか活躍出来るクラブがなかったが、現在の清陵はスポーツも盛んの様でありその面では頼もしい。ただ清陵でのスポーツは、他の高校の部活又その他のクラブとはどこか違ってほしいし、ぜひ



清陵独自の特長を持ってもらいたい。どのような違いや特長を持つかはその運動にたずさわっている人がそのスポーツの特徴、その環境、その時の時代背景、等々から考えてもらいたいと思う。

話を元にもどし、なぜ足が洗えないか。そのスポーツにたずさわっていて周囲の背景、状況、又その立場等から身を引けぬ場合もあるが。そんな事は問題ではない。何とんでもスポーツの持つ魅力である。その魅力とは何か、人それぞれに考えを持っていると思うし、様々でよいと思う。私の場合はどうか?余りにもその中につかり過ぎていて考えた事もない。何だろうか?何がおもしろいのだろうか?

一般論としてスポーツは勝つ事ではあるが、勝ち負けだけではない。そのスポーツを通して自分が何を学び何を身に付けたかが大切である。そして……。でもそんな美しい理論はどうでもよい。スポーツは決められたルールの上において勝つ事である。勝てばよいのである。勝ち負けは勝者であり美しく絶対的である。負けは敗者でありボロボロに傷付けばよい。その真剣勝負のスリルが何ともいえない。息が止まりそうである。

次には上下関係の厳しさ、横の関係の楽しさ等である。そのチームが勝つためにチーム全員で協力し団結するチームワーク即ち同じ釜の飯を食った仲間の関係

は、他人からは絶対分らない。他人には分からない何かによる固いキズナで結ばれている。上下関係も横の関係も自然に身に付く。この人間関係はその人又私にとって何よりもすばらしい宝物である。

その次には、どのスポーツも同じであると思うが、私がたずさわっている卓球の場合、ボールを追いかけている時はひたすらそのボールのみである。他の事は全く頭になく真白である。世の中にボール以外はなにもない。様々な人間関係のわずらわしさ、悩み等すべてを忘れられる時間である。苦しみ悩みを忘れる時間が持てる事は貴重である。

そして又現在平均寿命が延び定年後も人生がある。定年後楽しみもなくなただボケて行く楽しい生活?もよいが、スポーツを生涯学習と捕え、死の直前までハツラツと生き、バタリと一生を閉じる人生は理想とする所ではないだろうか。

等々列記すればきりはないが、私の小さな結論は、我々は今までの成長時代を終らせ、21世紀を目前にして政治、経済、環境全てが新しい時代に突入し、誰もが未経験の世の中をもがき苦しんで生きている。この現実から少しはなれ、別の環境(スポーツ)に身を置き、そこで新しいエネルギーを充満させ、又現実に向かって新たな力と新たな勇気で道を開拓していける小さな空間を持っているという事に、たいへん幸福を感じている。



代表 小口達夫
小口慶一郎(84回)
小野勝子(87回)

諏訪市湖岸通り5-17-6
TEL 0266 (58) 3515

漢方 医薬品 調剤 化粧品
有限会社 二葉薬局

井上彦次(42回)
浜正一(70回)
井上優(72回)
井上幸彦(84回)

〒392 諏訪市大手1-3-2
TEL 0266-52-1242
FAX 0266-52-3460

病院 田中クリニック

院長(外科・麻酔科) 田中正利(第52回)
副院長(内科・小児科) 田中マキ子

諏訪市元町18番11号 ☎ (0266) 52-2343

鳴呼清陵・人生の原点

茅野市玉川出身（玉川中学）
清陵卒業後東京大学薬学部を卒業、同大学院薬学系研究科博士課程終了。
群馬大学医学部および群馬大学附属内分泌研究所助手を勤め、1988年から群馬大学内分泌研究所助教授、1993年から群馬大学医学部教授で附属病院薬剤部長を併任している。また、群馬県病院薬剤師会会長を勤めている。
1980年から2年間アメリカの国立衛生研究所（NIH）へ留学。主な研究テーマは「ホルモンの作用機構」と「薬物代謝」。
服薬指導や新薬開発に対する社会の要求が急激に拡大している、それらへの対策に頭を悩ませている。
趣味はパソコンと健康法を兼ねた水泳、畑作り。



早いもので、清陵を卒業して36年である。清陵時代までの悠然たる時の動きと比較すると、その後の36年をなんと短く感じるであろうか。

最近、わがよき時代であった清陵での高校生活に思いを馳せることが多い。百周年記念式典に参加し、「ざざむし会」で35年ぶりに沢山の同期の懐かしい顔にお目にかかったことや、昨年の東京清陵会で多くの同期生に会ったことがその思いを一層強くしたのかもしれない。

最近、いろいろな原稿に「自反而縮雖千萬人吾往矣」のことを書くようになった。たとえば、群馬県病院薬剤師会の新年号会報の巻頭言に次のような文章を書いた。『孟子の詞に「自反而縮雖千萬人吾往矣」（自らかえりみてなおくんば、千萬人といえども吾往かん）（「自ら反省してみても自分が正しければ敵が千萬人いようとも正しいと思う道を突き進む決意である」）の意）がある。この精神は旧制諏訪中学から引き継いだ長野県立諏訪清陵高等学校の伝統であり、そこで学んだ私に最も影響を与えたことの一つであるが、会員諸氏にこの言葉を送りたい。私自身この気概を忘れずに、弱者の立場に立つことが出来る医療人としての強力な薬剤師集団を構築するための一端を担うことが夢である。』

大学院を終了して長い間ホルモンの作用機構の研究が続けてきたが、4年ほど前から群馬大学医学部附属病院で臨床に密接な仕事をするようになり、折しも医療制度の大変革期に直面してしまった。

21世紀の高齢化社会を控えて、医療保険制度が最大の政治問題として浮上している。医療保険制度の行方は国民の健康と老後を左右する大問題である。議論されている医療保険制度の論点は薬を使い過ぎていることである。この問題の解決には、医療制度の抜本的改革と医療機関及び医師の意識変革が必須である。ところが、国会の議論は医薬品費を減らす方策のみに集中しており、結局患者負担を増やすこと、薬の価格の切下げといった姑息な方法に終始している。根本的改革はいつもあと回しになり、医療保険が赤字になると再び患者や家族にしわ寄せのいくパターンが繰り返される。

我々医療の一端を担う者にとって、患者や高齢者の切り捨てには我慢ができない。高齢者の医療費値上げの口実は、「最

近の高齢者は裕福になり支払能力があるから」というものだが、本当にそうだろうか。いつの世でも高齢者の医療は公的な予算、あるいは保険で賄われるのが筋である。ほんの一握りの何不自由ない高齢者だけが十分な医療を受けて長生きできるのではなく、誰でもが適正な医療を受けられる医療体制が必要である。

そこで「自反而縮雖千萬人吾往矣」が登場するのである。清陵で学んだこの精神を忘れることなく、患者中心の最適な医療体制を作るために医療の現場で微力を尽くしたいと考えている。我々のクラスは社会科の平沢武男先生であったが、「ガマさん」の愛称で親しまれていた。諏訪盆地一周のクラス対抗駅伝の時には、自転車に「必勝蝦蟇大明神」の幟をくくりつけて伴走した記憶があるが、蝦蟇大明神も清陵の伝統を少しでも守ろうとする教え子の悪あがきを温かい目で見ていてくださるものと自分に納得させている。

私はいま、関東平野の北端、上州赤城山の山麓に住んでいるが、直線で90キロ離れた八ヶ岳連峰と蓼科山の白嶺が秋から冬にかけて我家からくっきりと見える。心の休まるときであり、心が青春時代へ回帰するひとときである。

最後に後輩の在学生に一言。医学部の入学試験に関わったり、チューターとして学生の面倒をみているが、学生の気質がどんどん変わってきている。期末試験では過去にでた問題集に頼り、少しひねるとお手上げになる。マニュアルがあれば器用にこなすが、自ら創りだす工夫が出来ない、等々、どの大学の教授達にも共通の認識であろう。大学へ入ることを最大目標にした教育の弊害である。清陵の伝統をグサイなどといわずに大いに学んで社会へ巣立ってほしい。母校の伝統を踏まえた発展と奮闘を祈るのみである。

腰松崎 廉(64回)

◇岐阜大学医学部卒業
◇名古屋鉄道病院、信州大学医学部で研修
◇東京都がん検診センター消化器科勤務後
◇辰野総合病院内科勤務
現在：辰野総合病院副院長
趣味：写真・陶器
陶器（磁器はジキに飽きてしまい）を眺めることと安くて気に入ったものを買うこと
植木いじりなどと、既になんか、じじむさい
興味：最新のメカ製品（但し、自分が理解できる範囲の低レベルのもの）
上方漫才

痛



「おまえ、自分が医者なんだから当然検査はしてあるんだろう？」同級生からの電話での話し中に、持病の腰痛が持続しておりいつも治っていたものがこの頃何かひどくなって、もう年で駄目だよ、なんて私がグチった時の相手の言葉である。これを何故か無理に無視して違う話に鋒先を変えてはみたものの、そういえば若い頃は時々腰痛で動けなくなったときに撮影していた腰のX線写真もどうせまた同じことだろうと、しばらく最近何年か撮ってないことに気が付いた。

大学時代に柔道部にいてその時腰を痛めたので、腰には良くないバーベルでのトレーニングの記憶は、確かにあまりない。30代から所謂「ギックリ腰」で動けなくなることはしばしばあった。45才で右尿管結石で3回も衝撃波による破碎療法をうけたが、その影響は全くないとは言えないのかもしれない。また、その時硬膜外麻酔を6ヶ所刺されたが、最後の1ヶ所が外れたまま1日中入っていたため後遺症が残り、寒くなったりどうかするとその後も時々痛みがでた。

52才の春にゴルフをやったのが最後で、ここ3年間は練習さえ行っていない。春の重症杉アレルギーもさること乍ら、やはり腰痛が発症して仕事に支障を来すのを恐れたことも事実である。今までの腰痛症はたいがい1～2週間もすると治っていた。前科がある身体であるから、多分そのようなものがいろいろ出てきているだけでまた時期がくれば良くなるだろうと思っていたのに、今回は少しも良くならない。この頃、診察中に椅子に座るだけで腰に響く。ある日、中腰でやらなければいけない検査の後で腰を伸ばそうとした時、何故か痛くてとても伸びない。これはいけない、今日こそX線検査くらい受けてみようとその時決心した。

X線室で撮影してもらい放射線技師室で談笑しながら衣服を着用していると、たまたまどこかの患者さんの写真が現像されて機械から出てきた。第5腰椎が変形して見えるし、椎間狭小、軽度側弯、腰椎症もありこれは70才くらいの患者さんのかな気の毒にと思って眺めていたが、支度が終わっていくら待っても肝腎の私の写真が出てこない。なにげなくそのフィルム名を見ると、な、な、なんと私の名前が書いてあるではないか。そんな馬鹿なはずはない。私はまだ50代半ばだし、今まで器質的に一度だって異

常がなかったはずだ。第一こんなに老化したのが自分の腰椎だなんて信じ難い。若い頃にさんざんスポーツで鍛えた肉体には自信があった。もう一度フィルム上に写っている自分の名前を、間違っていることを祈るような気持ちで眺めた。むなしい再確認後、次は現像機にむかって八つ当たりをしたくなる。今の現像機ってのは昔と違って何故こんなに早くフィルムが現像されて出てきてしまうのかと。

第5腰椎の変形にひよっとすると癌の転移ではあるまいか、と看護婦たちに促されるままにすっかり気弱になってしまった私は、一応腫瘍マーカーも調べるための採血までした。それにしても何時こんな変形が出てきたのであろう。私の身体が急にしかもこんなに老化していたとはどうしても容認しがたい。頭の中身はもう相当以前から物忘れや記憶力が衰えてきてかなりアルツハイマーに近いことは自分自身認めているが、内心ひとつだけいくらか自慢げな頭髪の白毛は幸い数える程しか無くて今のところほとんど黒いし、うわさによると看護婦たちが「あの先生の頭髪は果たして自毛なのか染めているのか髪なのか」と、問題にしているとさえ聞くというのに。しかし、現実こんな証拠を突きつけられると、すっかり年老いてしまった自分を感じる。

整形外科のT医師が当日の手術が終わってから私の部屋までX線写真を見にきてくれて、「これは、年相応の単なる老化現象によるものだ」と言った。他人に老化を指摘されるのは嬉しくないが、あとで思うに「年相応」といつてくれたことがせめてもの慰めであったのだろう。

それにしても、ショックであった。ついで、こないだ、清陵を卒業したばかりと思っていたのに、なんと意外にも、もう老人なのである。

整形外科 外科 産科 婦人科 立木 医院

立木 正 純 (38回)

(日本体育協会公認スポーツドクター)
(山本喜市先生顕彰碑保存会会長)
(全日本スキー連盟強化本部スポーツドクター)

立木 委 枝

〒392 諏訪市諏訪1丁目22-24
電話 0266-52-1074



株式会社

ダイヤ精機製作所

本社工場 岡谷市小井川7978
TEL (0266) 27-7733 (代)
営業所 東京都杉並区善福寺3-10-2
TEL (03) 3399-0685 (代)

精密機器製造
工作機械用ツール

代表取締役 小口 成人 (44回)
取締役 武田 吉清 (61回)
取締役 小口 裕司 (79回)
監査役 植野 忠道 (41回)

水晶時計

株式会社 マカホ

長野県茅野市宮川4900 ☎(0266) 72-6111(代)

アメリカ工場……ロスアンゼルス バンコク工場……タイ国バンパイン工業団地

自動組立機の

マイクロエニヤリング株式会社

長野県茅野市金澤5387-1 ☎(0266) 72-6551(代)

雪の降らぬところで老後を

出身：富士見町
経歴：西独留学
慶応大学医学部卒業
慶大泌尿器科助手
バージニア医科大学外科
臨床フェロー
(米国医師免許取得)
筑波大学講師
(医学博士号)
順天堂大学助教授
現在：琉球大学医学部泌尿器科
教授兼付属病院血液浄化
療法部長
受賞：坂口賞・稲田賞・田村特
別賞
住所：〒903-0213
那覇市首里石嶺町2-96-1
琉球大学医学部宿舍3-103



海のない県： アルプスとハゲ岳に囲まれ、釜無川と立場川の流れる富士見に育ち、やさしい環境と友人に恵まれ、ほとんど苦勞を知らぬ青春であった。そのまま農耕民族の生活する信州で一生を送れば、楽しい人生で終わったことと思う。富士見村から、諏訪清陵高校での生活はさほど私に変化を与えなかった。移民で米国に渡り薬剤師や歯科医となり帰国した叔父や、米軍で通訳をしていた親類も身近にいて、終戦後の米国に対する私のあこがれは強く、手の届かぬ夢の国と思

っていた。

西洋見聞録： 慶応義塾大学医学部で英語会(ESS)の部長を勤め、医学部3年生の時、ドイツに留学することが出来た。さらに米軍病院でエクスターンとして勉強する機会などで、外人とも余り物怖じせずお話が出来ようになった。慶応病院で研修を終了し、バージニア医科大学で腎移植の臨床(腎移植100例、その他の手術500例)に携わり、カルチャーショックを受けた。幸いにも2年間でアメリカの医師免許証も取得でき、夢であった米国の医師となった。これで慶応に帰れば、その温床にて苦勞ない人生で終わっていた。

競争と冬眠： そこで別の人生を歩もうと某国立大学に講師として就職した。権威主義、強者の哲学、競争原理を目の当たりにし、国立大学を勉強した。数年の内に論文を書き上げ、母校より医学博士を取得した。全国規模の人事異動があり、思わぬ話で某私立大学に助教授で赴任することになった。人に負けじと役割上論文を書くようになると当然出る杭は打たれ、自らが意図せぬのに競争という舞台の登場人物になっていきました。小中学校で私が得意したのとは異なる障害物競走を走るようになりました。その大学で学長、教授が続けざまに仕掛けるトラップ(金、女、黒い噂)をクリアする一方、こっそり自分の武器(論文)を増やさねばなりません。それも竹槍では将来の競争(教授選)に勝てません。私の英文論文(一流外国雑誌を含む)が30編を越える頃より、教授は退官(最後通牒)もせまり、自分の母校よりの後継者を熱望し、当時のバブルの勢いにもり急遽対策協議会を発足させた。学生教育からまず外され、手術からも干され、外来診療からも外され、窓際族にされ冬眠しました。私が長年使用していた助教授

室を明け渡す様に決議され、教授より命令が下された。当然、ノーと申しますと、退職勧告(教室のルールに従わず、スペースの開放を拒み、教室を愚弄したもので、常軌を逸している——この件は教室員の全ての同意を得ている。故に、自主的辞職を勧告する)が出、教室員が全て踏み絵をさせられる事態となった。私に味方する4名の同士が島流しに会いました。修羅場を落とし穴にはまらずにくぐり抜けました。現在、太平洋と東シナ海が見える琉球大学に参り3年となり、泌尿器科学教室を主宰しております。

老後を迎えて： 男女がフェロモンにより魅力を感じ会い、愛(多幸感)という妄想を燃え上がらせるが、その神経伝達物質は数年で耐性(飽き)を生じ、ときには不倫、離婚となる。この危機を救う麻薬であるエンドルフィンとオキシトシンにより幸福感和安心感がさらに与えられ、夫婦関係は長引く。その四半世紀後に更年期が訪れる。私と同じ更年期の諸氏に“徳高く行い正しい、立派な人”といわれた貝原益軒の養生訓の一読を勧める。益軒先生はまれにみる道德学者であるが、当時は、“据え膳食わぬは、男の恥”で道德家ではない。養生とは、生まれ付きたる天年をたもつ道、つまり、寿命を全うするための方法であり、心を平静に保ち、体を絶えず動かし、喜びをもって家事にいそしみ、無茶をしないで、身を守り、精神的ストレスを避ける。内欲(飲食、好色、眠り、言語をほしいままにする欲と、喜、怒、憂、思、悲、恐、驚の7情の欲)をこらえて、外邪(天の4気——風、寒、暑、湿)を防ぐ。就中、本能を妨げず、スタミナとバイオリズムを保つ。人生苦あり楽ありで、全てが遺伝子で決定されてはいないが、特に寿命を縮める癌遺伝子が突然変異を起こさぬよう気をつけて、残る人生を悠々自適して下さい。

事務局だより

◆昨年6月の定期総会において、小菅重男会長と小平祐副会長が退任されました。百周年記念にあたり、あの感激の式典や大成功の諸事業も、担当諸兄のご努力によるところ勿論大ですが、お二人のご指導あつてのものでした。本当に有り難うございました。今後も顧問としてお力添えをお願いいたします。新三役は次の方々が引き受け下さいました。

会長 宮坂久臣(49回)前副会長
副会長 有賀 裕(50回)諏訪支部
同 寺島敏郎(50回)東京支部長
同 茅野 實(52回)長野支部長
同 淵上良子(56回)東京支部
監事 井上彦次(42回)諏訪支部
同 小口成人(44回)岡谷支部



若返りと言っても同窓会のことです。で自ずから限度がありますが、旧制諏訪中学から新制諏訪清陵高校への過渡期の方々が中心で、新しい風が吹くものと思われまます。よろしく願ひします。◆ただいま同窓会では、校舎改築時(平成元年)にご寄付を頂いてない方々に、終身会費のご納入をお願いしております。昭和61年入学の92回生以降は、入学時に1万円の終身会費を頂いておりますので、それ以前の同窓生については校舎改築時のご寄付を終身会費とみなし、同窓会の活動のために出来るだけ平等のご負担をお願いしようというわけです。

申すまでもなく、同窓会費は会員の親睦・連帯と後輩生徒諸君への種々の援助のために、有効かつ厳正に使われております。再三お願いの書状が行って気におさわりのむきもあらうかと思いますが、ご理解をお願いしたいと思います。

◆この終身会費のことでいくつかの問合せがありました。①毎年払うのか? ②強制的か? ③東京で払った筈だが? 等々。これらの代表的なご質問についてお答えします。①一度ご納入下されば以後のお願いはございません。一生に一度の寄付のようなものとお考え下さい。②もちろん強制ではございませんが、全会員平等のご負担とお考え頂きたいと思ひます。③実のところ「終身会費」というのは、東京支部でも集めております。支部へ納めればその何割かが本部に行くと言うのが普通ではないかと思われるでしょうが、本同窓会ではそのような組織構成になっておらず、各支部とも皆独自の活動と会計でやっております。支部によっては「年会費」という名目で毎年ながしを集めているところもあります。◆お金のことばかり続いて誠に恐縮ですが、「会員名簿」と「写真でつづる清陵の百年」(略称「百年史」)の代金未納の方がまだ相当数おいでです。各々二度ほど催促のお手紙を差し上げましたが。本当は未納の方の数を学年別にここに書きたいのですが、「そればっかしなら」あるいは「そんなにいるなら」、「俺一人くらいどうってことないだろう」などとお考えになられるとまずいのでここには書きません。しかし一冊5,000円ないし4,500円ですので、すぐ百万という額に上ってしまい、同窓会の運営費を圧迫しているのは事実です。ご送金をお忘れの方は、ご面倒でもお早く郵便局へ足をお運び下さい。◆昨年度中にご寄贈頂いた図書は次の

12冊です。誠に有り難うございました。同窓生文庫に展示し活用させて頂いております。なおご著書等を上梓なさった節は、同窓生と後輩のために、一冊同窓会へご惠贈頂ければ幸甚です。

○伊藤国男(伊藤長七御子息)著
「医者というもの いのち見つめて」
○茅野市郷土研究会編「茅野」第43号
(竹内丈夫先生遺稿集)
○小川三郎(22)著「毛細血管像と臨床」
「難病早期診断と治療」
○小山良治(42)編著
「人間磯部巖と愛知の文化」
○矢崎好夫(42)著「随想 蓼科高原」
○五味幸男(44)・濱廣匡共著「五・一五
事件の謎 濱大尉の思想と行動」
○牛山充正(51)著「太陽黒点観測に関する
報告資料集」(諏訪清陵高校太陽
観測45周年記念誌)
○双樹会(52・55回)編「あ、信山の」
○中村梧郎(62)著「戦場の枯葉剤」
○小林 勲(63)著
「再生のエメラルドグリーン」
○生越万理子(66)
「こだわりの味 おいしい店」
・「太陽黒点…」は若干の残部がありま
すので、関心をお持ちの方は51回生の
牛山充正さんにご連絡下さい。

Tel 0266-52-0315

◆事務局メンバー

事務局長 小口祐一(47)
係主任 伊藤俊彦(65)国語教諭
係 林 隆憲(68)音楽教諭
係 北沢 潔(84)社会教諭
係 茶城啓二(86)体育教諭
係 赤羽祐史(90)英語教諭
相談役 木下芳英(48)理科講師

Tel 0266-58-0356

Fax 0266-57-0348

(火曜～金曜 10:00～16:00)

品質一筋

『品質本位』——創業以来三三〇年の節目を迎えた今、私たちは敢えてこの言葉を社是として掲げます。それは、『品質が全てに優先する』という信念こそ、先人達が育んだ最大の財産だと考えるからです。

長野県内では抜群、全国でも屈指の品評会入賞歴を誇る酒蔵として、また全国過半数の酒造メーカーで品質向上に



貢献する『協会7号酵母』の発祥蔵として、真澄は常に品質の頂点に迫ることだけを念じて来りました。

外見を飾ることも奇抜な個性で人目を引くことも苦手です。原料米を吟味し、技術や設備を常に最高の状態に磨き、そして地味だけれども文句無しに旨い酒を醸し上げる、そんな真澄らしさを大切にしながら、私たちはこれからも銘酒造りに心血を注いで参ります。



ご子弟の免許取得には
(東京方面の方は20日間で卒業できる
合宿教習で)

長野県公安委員会指定

茅野自動車学校

茅野市宮川5299番地 ☎ 0266-72-4111

代表取締役 矢崎 斉 男 (51回)

代表取締役 新村 良雄 (四九回)
新村 隆 (八五回)
下諏訪町四角
☎ (〇二六六) 二七七八五〇五

諏訪サバイブ
不二屋もなみ

まき